

平成 28 年度メディア芸術連携促進事業 連携共同事業

施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管と
人材育成環境の整備 実施報告書

学校法人 京都精華大学

平成 29 年 2 月

目次

第1章 概要.....	5
1.1 事業の目的.....	5
1.2 今年度事業の目的	5
1.3 実施内容.....	6
1.4 成果.....	6
1.5 今後の課題、展望	7
第2章 事業の目的、主旨	8
2.1 背景.....	8
2.2 事業目的.....	8
第3章 実施体制	11
3.1 事業の進行管理体制.....	11
第4章 実施スケジュール	12
4.1 実施スケジュール	12
4.2 実施会議.....	13
第5章 実施内容.....	14
5.1 各管理館の特徴と作業概要.....	14
5.1.1 京都国際マンガミュージアムの特徴と作業概要.....	14
5.1.2 北九州市漫画ミュージアムの特徴と作業概要.....	14
5.1.3 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの特徴と作業概要	14
5.2 各管理館の目的	15
5.2.1 京都国際マンガミュージアムの目的	15
5.2.2 北九州市漫画ミュージアムの目的.....	15
5.2.3 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの目的	15
5.2.3.1 共同収蔵庫.....	15
5.2.3.2 貴重書収蔵場所	16

目次

5.2.3.3	合志市	16
5.3	各管理館の取組対象	16
5.3.1	京都国際マンガミュージアムの取組対象	16
5.3.2	北九州市漫画ミュージアムの取組対象	16
5.3.3	NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの取組対象	16
5.3.3.1	共同収蔵庫	16
5.3.3.2	貴重書収蔵場所	16
5.3.3.3	合志市	16
5.4	各管理館の作業概要	17
5.4.1	京都国際マンガミュージアムの作業概要	17
5.4.2	北九州市漫画ミュージアムの作業概要	17
5.4.3	NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの作業概要	17
5.4.3.1	共同収蔵庫	17
5.4.3.2	貴重書収蔵場所	18
5.4.3.3	合志市	18
5.5	共同収蔵庫	18
第6章	成果と課題	19
6.1	各管理館の成果	19
6.1.1	京都国際マンガミュージアムの成果物	19
6.1.2	北九州市漫画ミュージアムの成果物	19
6.1.3	NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの成果物	19
6.2	事業全体の課題	21
6.2.1	京都国際マンガミュージアムの課題	21
6.2.2	北九州市漫画ミュージアムの課題	21
6.2.3	NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの課題	22

目次

6.3 展望.....	22
6.4 調査と研究.....	23
6.4.1 公共図書館への調査.....	23
6.4.2 北海道立図書館での現地調査.....	23
6.5 シンポジウム.....	24
6.5.1 カレントコンテンツでの広報.....	24
6.5.2 シンポジウムの内容.....	27
6.5.3 アンケート.....	30
第7章 総括.....	33
付録.....	35
1 議事録.....	35
2 マニュアル.....	38

第1章 概要

1.1 事業の目的

- ・ 複製文化を代表するマンガの雑誌と単行本という多種大量の出版物を、収蔵スペースの限られた既存のマンガ資料館が、共同で収集、整理、保存、活用を行っていく実験（共同収蔵庫の運営実験）を行う
- ・ 将来的には、マンガ資料館との協力関係を基盤とした、大量複製文化資料を網羅して収集していく<<シチズン・アーカイブ>>（市民協力型の協働アーカイブ）の構築を志向している

1.2 今年度事業の目的

- ・ マンガ雑誌と単行本を収蔵しているマンガ資料館三館および共同収蔵庫にて、以下を目的とした作業を行う。

* 三館とは、「京都国際マンガミュージアム（以下、京都 MM と記載）」、「北九州市漫画ミュージアム（以下、北九州 MM）」、「NPO 法人 熊本マンガミュージアムプロジェクト（以下、クママン）」であり、共同収蔵庫とは熊本市内に賃借する森野倉庫である

- ① 共同収蔵庫におけるマンガ雑誌共同保管事業の本格稼動（36,400 冊の入庫）
- ② 共同収蔵の作業モデル（雑誌）の確立
- ③ 共同所蔵庫の所蔵情報を共有するための情報基盤として「文化庁メディア芸術デジタルアーカイブ」（註1）を位置付け、情報を公開するための準備入力を行う
- ④ 貴重書（2,000 冊）の整理とデータベース登録
- ⑤ 共同収蔵庫の重複本の利活用のための検討（シンポジウムの開催や調査）

註1 「メディア芸術データベース（開発版）」のマンガ分野の入力システムである「メディア芸術デジタルアーカイブ」（以下、「文化庁データベース」と記載）

第1章 概要

1.3 実施内容

・各館および共同収蔵庫のマンガ図書の出納点数は以下の通り

団体名	出庫冊数	サテライト入庫 (正本入庫)冊数	複本保管 冊数	経費 (機材リース、運搬費、 業務委託、賃借料など)
京都 MM	36,400 冊(雑誌 700 箱) 達成率 100%、未整理有	5,349 冊(正本率 47.8%/ 雑誌 4,754 冊、単行本 595 冊)	5,825 冊 (クママンへ再寄贈)	178.4 万円
北九州 MM	1,500 冊(21 箱) 達成率 75%	0	1,500 冊 (クママンへ再寄贈)	2.8 万円
クママン (合志市マンガ 関連資設資料)	2,000 冊	1,500 冊(クママンより入庫、ミュー ージアム設置のための蔵書)	—	—
クママン	1,500 冊(合志市へ)	2,000 冊(貴重書)	9,325 冊(2MM、合志市 から入庫)	169.3 万円
【共同収蔵庫】	受入 37,900 冊 達成率 100.1%	5,349 冊(雑誌 4,754 冊/単行本 595 冊)	—	308.1 万円
	出庫 2,960 冊 サテライト実験(京都 MM)	—	—	22.1 万円

表 1-1

1.4 成果

- ① 共同収蔵庫におけるマンガ雑誌の共同保管点数 36,400 点(700 箱、但し重複チェックは 11,000 点程度)。貴重単行本は 2,000 点の整理とデータベースの予備登録が完了。共同収蔵庫における雑誌作業のマニュアルを作成
- ② 「文化庁データベース」を共同収蔵庫の所蔵資料を公開するための情報基盤として活用していくための準備入力完了(予備入力を含むデータ入力 5,349 件)
- ③ 新設される熊本県合志市マンガ関連文化施設へ 1,500 点のマンガ資料を再寄贈(資料の利活用事例)
- ④ シンポジウム「施設間連携でひらく、マンガ資料の収集と利活用の可能性」を熊本にて開催し、共同収蔵庫の見学を実施した。また貸本等の貴重書を所蔵する北海道立図書館の資料調査やマンガ資料に関する公共図書館アンケートなど、資料の利活用に関する連携先の開発に着手

第1章 概要

1.5 今後の課題、展望

- ① 共同保管しているマンガ単行本の一部については、今後新設されるマンガ資料館の蔵書への利用、既存のマンガ資料館の欠本補充を担う〈コミック・プール〉としての活用や、一定のテーマに基づいたセット組みをして貸出しする〈マンガ・バンク〉的な展開も可能となる
- ② 収蔵スペースの限られた既存のマンガ資料館の参加を募ることにより、各館スペースの有効活用を促進しつつ、市民からの資料の寄贈を受け入れる体制（資料館相互で支え合う寄贈受入のためのネットワーク体制）が強化され、市民協力を軸とする資料収集の仕組みの整備が期待される
- ③ マンガ原画アーカイブとの連携を行うことで、資料整理や企画展の開発など、資料の有効活用方法の更なる開発が期待される

第2章 事業の目的、主旨

2.1 背景

ポピュラーカルチャー（大量複製文化）で重要な位置を占めるマンガに関する史資料は、「（大量印刷物である）雑誌・単行本」と「原画」という、二つの主要な資料群から構成される。この資料群を対象とするアーカイブには、以下二つの大きな課題がある。

- ① 日本国内のマンガアーカイブ施設の多くは、（大量複製物である）「マンガ雑誌や単行本」を対象として収集と展示を行う運営形式をとっているが、多くの施設が資源（収集スペース、入館料金等の収入からなる運営資金、専門的な知見を持つ人材など）の不足という課題を慢性的に抱えており、解決策を模索している状況である。
- ② 国内での価値付けがなされていない希少性の高い「マンガ雑誌や単行本」は、公共の文化資源として評価し理解される機会を得ることがないため、何の対策も取られぬまま、蒐集家の求めに応じて海外へ四散流出してしまい、浮世絵と同様の状態を招く可能性が極めて高くなっていると言える。

2.2 事業目的

京都精華大学は、2006年から京都国際マンガミュージアム（マンガ資料を30万点収集）を京都市と共同運営しており、2016年に開館10周年を迎えることとなった。本事業を推進する京都精華大学国際マンガ研究センターは、京都国際マンガミュージアム内に設置されており、マンガの「雑誌・単行本」ならびに「原画」のアーカイブ化とそれに携わる専門的人材育成を担う、国際的中核研究拠点となることを目的のひとつとして活動している。前述のマンガ史資料を巡る背景を踏まえ、京都精華大学国際マンガ研究センターは、マンガの「雑誌・単行本」を対象として、連携共同事業「施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管と人材育成環境の整備」を実施するものである。

① マンガ・史資料（雑誌・単行本）の共同保管に関する実践と研究

メディア芸術の一翼を担う、史資料としてのマンガ本（マンガ雑誌やマンガ単行本等として、年間に1万種類発行されている）の収集と活用は、マンガ文化の振興を支援する事案と言えるが、その資料の膨大さとメディアとしての多様性は、日本各地の収集施設（およそ70施設）が抱える共通の問題である。

本事業では、膨大なマンガ史資料を、どこか一ヶ所に集めるのではなく、全国に点在する収集施設をネットワークで繋ぎ、その上で現物資料と情報の相互利用を促進するという、マンガ資料に関わる「共同収集・協働整理・協働保存・共同活用のシステム」構築の足掛かりを作ることを目的とする。つまり「それぞれの所蔵館で何をどのように収集・整理・保存・活用するか」とい

第2章 事業の目的、主旨

う問題と、「オールジャパンで収集・整理・保存・活用を行う可能性と課題は何か」という問題を双方向的に意識しながら、連携共同体制の下、試験的に資料現物の移動や管理、データベースの構築や共有などの活動に取り組むものである。複数施設の協働による試験的作業の中から、資料の収集・整理・保存が抱える現時点での諸課題の解決方法を具体的に探り出し、更に資料そのものの新たな価値や可能性をも探り出すことで、近い将来取り組むべき問題点を浮き彫りにしていくことを企図している。

マンガアーカイブ施設や公共図書館等へ協力を要請して、マンガ「雑誌・単行本」資料に関する総合的な調査（所蔵や配架の状態、収蔵スペースの不足状況、新たな資料受入の要望など）を行い、共同保管事業のニーズ（既存資料の保管要望、もしくは新規資料の受入要望）を把握するための調査も実施する

② 史資料の価値付け（活用モデルの開発）に関する調査と研究

多くのマンガアーカイブ施設における展示企画は、所蔵する「雑誌・単行本」資料を用いたものである。これらの展示に、「原画」を参照した情報を加える、「原画」を同時に展示する、「雑誌・単行本」の出版企画に合わせた展示を企図して「原画」を展示に活用するなどの工夫を加え、従来とは異なる展示を企画することで、資料の新しい活用モデル開発の検討を行う。

「原画」資料を整理する際、原画作品が掲載された「雑誌・単行本」を作業の定本として整理を行うことが多い。「原画」のアーカイブで実施される、この参照作業を支援するため、「雑誌・単行本」の共同収蔵庫から該当する「雑誌・単行本」を探し出して出庫することで、資料の新たな利活用の方法や、資料の新たな分散収蔵のありかたなどを検討する実験を行う。

③ マンガ「雑誌・単行本」の取扱いに習熟した人材を育成するための環境整備

1. 共同保管に関する、各種作業マニュアルの作成および公開を行う。
2. 「雑誌・単行本」のアーカイブ事業に関する研究会やシンポジウムを開催する。これらの記事をメディア芸術カレントコンテンツ等にて発信するなど、社会一般に向けた情報提供も実施していく。

本事業に参加して協働する組織は、「京都国際マンガミュージアム」（約30万点所蔵。）と「北九州市漫画ミュージアム」（約7万点所蔵。）、そして、熊本県熊本市内にてマンガの巨大倉庫を設置しているNPO「熊本マンガミュージアムプロジェクト」の三組織である。

三組織と一拠点（共同収蔵庫）による共同実験を展開することで、「それぞれの所蔵館で何をどのように収集・整理・保存・活用するか」という問題と、「オールジャパンで収集・整理・保存・活用を行う可能性と課題は何か」という問題に、連携して対処していくものである。つまり、共有するサテライト収蔵施設を設定、そこで複数の収蔵施設がマンガ書籍資料を収集・管理することで、資料収集の効率化、各所蔵資料に関する情報の相互参照性の高度化を実験するものである。またこの実験環境において、人材の育成環境の整備や交流も実施していくものであり、要約

第2章 事業の目的、主旨

すれば、マンガ資料の収集・整理・保存・活用の「連携的かつ相関的手法の開発」と「人材」の集約と還元がねらいである。

なお、本事業の申請主体である京都精華大学は、京都国際マンガミュージアムを京都市と共同運営している。その本学が申請する、もうひとつの事業「関連施設の連携によるマンガ原画管理のための方法の確立と人材育成環境の整備」は、文字通り、マンガ作品の「原画」（原稿）を対象としているが、マンガ「雑誌・単行本」を対象とする本事業と一対をなすプロジェクトである。これは、近年議論が高まる国内の文化関連資料のナショナル・アーカイブ形成を見据え、このメディア芸術分野が先行モデルとなるべく、両事業を全国的なアーカイブとネットワークの端緒に位置づけることを企図しているためである。その意味において本事業は、雑誌・単行本・原画といった、メディアの形態を問わず、広くマンガ資料の活用を通じた産官学民の連携を推進するための中核となることを、巨視的な目的としている。

第3章 実施体制

3.1 事業の進行管理体制

本事業は、京都精華大学国際マンガ研究センターが進行を管理して、北九州市漫画ミュージアム、熊本マンガミュージアムプロジェクトとの連携により、事業を推進した。

当事業は、マンガアーカイブに携わる三組織の協働にもとづき、マンガ図書の共同収蔵実験を実施することで、整理作業の手間や効率性などの検証を行い、その上で各館での作業実態と比較するため、下記の全体会議や意見交換会を実施した。更には、共同収蔵図書の所在情報や関連情報を共有するための情報基盤である「文化庁メディア芸術デジタルアーカイブ」の入力レクチャーを開催して、情報の共有と公開の準備を行った。

・ 京都国際マンガミュージアム（京都 MM）

責任者：伊藤 遊 研究員（京都精華大学国際マンガ研究センター）

作業員：業務請負スタッフ 2 名（本事業専従者）

・ 北九州市漫画ミュージアム（北九州 MM）

責任者：表 智之 専門研究員（北九州漫画ミュージアム）

作業員：北九州市漫画ミュージアム職員 2 名

・ NPO 法人 熊本マンガミュージアムプロジェクト（クママン）

責任者：橋本 博 代表（NPO 法人 熊本マンガミュージアムプロジェクト）

作業員：業務請負スタッフ 1 名（本事業専従者）、熊本マンガミュージアムプロジェクトスタッフ

・ 共同収蔵庫（森野倉庫）

責任者：伊藤 遊 研究員（京都精華大学国際マンガ研究センター）

作業員：業務請負スタッフ 5 名（本事業専従者）

第4章 実施スケジュール

4.1 実施スケジュール

各館作業を含むスケジュールは、以下の通りとなった。

① 資料移動、管理実施、モデル開発に先立つ会議の開催

1. 京都国際マンガミュージアム会議

平成27年度文化庁受託事業「施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管事業」での実績をもとに、三組織間でのマンガ資料とデータの共有と移動、管理の方法について具体的な作業パターンを検討する。その結果に基づき、実現可能性や実務作業を始めるためのスケジュールや人員設置、必要経費などについて、シミュレーションする。

新たな協働施設の開発、共同事業のニーズ調査、シンポジウム開催等についての概要を確認する。

2. 共同収蔵庫（熊本）会議

上記シミュレーションを元にした共同収蔵庫における実施環境の整備、作業員への説明を兼ねた会議を実施する。

② 資料移動、管理実施、モデル開発に先立つ会議の開催

1. 実行計画にもとづく資料移動・管理の実施

京都国際マンガミュージアムから、共同収蔵庫に資料（今年度は主に京都MMの雑誌が主体となる）を移動させる。また、京都国際マンガミュージアムへ日常的に送られてくる寄贈資料を、直接共同収蔵庫に送付する実験も行う。

2. 共同収蔵庫での整理とデータ入力

共同収蔵倉庫に移動された京都国際マンガミュージアムの資料および元々共同収蔵庫に収蔵されていた熊本マンガミュージアムプロジェクトの資料の整理と書誌データを入力する。熊本マンガミュージアムプロジェクトの貴重資料の整理と基礎データの入力については、別途体制を整備して作業にあたる。

③ 移動した資料の管理のためのケーススタディ

1. 資料を共有するサテライト収蔵施設として、共同保管資料を対象として、各館が通常運用している出納・閲覧提供等と同等のサービスを可能にするためのケーススタディを実施する。

2. 「原画」整理の定本資料となる雑誌・単行本についても、正本のサテライト収蔵（重複本ではない、正規の収蔵資料を他の施設へ収蔵保管すること）の可能性を含めて、実験的に出庫をする。

第4章 実施スケジュール

- ④ 共同保管および資料受入に関するニーズ調査
 1. 新潟市マンガ・アニメ情報館、広島市まんが図書館の二施設を含めた会議を開催して、共同保管事業に関する情報共有と要望の検討などを行い、実験的な作業内容を確認する。
 2. 全国のマンガ資料館や主要な公共図書館に対して、資料保管の要望、もしくはマンガ資料の新規受入の要望に関するアンケート調査を実施する。

- ⑤ 資料移動・管理実施後の、マンガ資料のアーカイブに関する問題点共有のための会議やシンポジウムの開催
 1. 集められた資料の管理に関するケーススタディについて、収集された情報を分析評価して広く情報発信を行う。
 2. 調査や実験で得られた成果を共有して、マンガの雑誌・単行本のアーカイブの総体を俯瞰する協議を実施する。

4.2 実施会議

・全体会議

2016年10月23日（日）17：00～19：00 京都国際マンガミュージアムにて開催

・連携共同事業 中間報告会

2016年11月8日（火）13：00～17：15 国立新美術館にて開催

・省察会議

2017年2月12日（日）15：00～16：40 京都国際マンガミュージアムにて開催

・連携共同事業 報告会

2017年2月26日（日）13：30～17：00 京都国際マンガミュージアムにて開催

・シンポジウム

2017年1月13日（金）13：00～17：30 くまもと県民交流会館パレアにて開催

・「文化庁メディア芸術デジタルアーカイブ」入力レクチャー

2016年10月11日（火）～12日（水） 20時間（skype対応含む） 共同収蔵庫にて実施

2016年11月9日（水）～11日（金） 20時間（skype対応含む） 共同収蔵庫にて実施

・貴重書入力レクチャー

2016年11月11日（金）～11月12日（土） 6時間 共同収蔵庫にて実施

第5章 実施内容

5.1 各管理館の特徴と作業概要

5.1.1 京都国際マンガミュージアムの特徴と作業概要

昨年度まで実施していた単行本の入力作業は継続するが、今年度は雑誌の作業を中心として事業を運営する。入力に際し、専門家のレクチャーを受けるとともに、入力データの確認を行い、高い品質を維持する。

5.1.2 北九州市漫画ミュージアムの特徴と作業概要

地元ゆかり作家に関わる学芸資料（原画・単行本・雑誌など）約 22,000 点と、閲覧用の図書資料（単行本のみ）約 7 万点の二系統で資料収蔵を行う。前者については雑誌バックナンバーなど希少資料の収集に課題があり、後者については、品切重版未定単行本の入手に加え、寄贈受入等によって発生する大量の複本や収蔵対象外資料が書庫を圧迫し、対応が必要となっている。

5.1.3 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの特徴と作業概要

今年度は、熊本マンガミュージアムプロジェクト独自の活動として、貴重書の作業と、合志市にある資料の移動・入力作業を行う。

① 貴重書

今年度からデータ入力の対象を貴重書の定義を行っておきたい。

1. 貸本マンガ…昭和 20 年代終わりから 30 年代半ば頃まで、全国に 3 万軒以上あった貸本屋で流通していた。サイズは初期は B6 判、後に A5 判が中心、紙質は悪くページ数は少ないが厚みがある。出版元は大阪、東京の零細出版社が多い。

いつ出されたかが読者にわからないようにするために、奥付には発行年月日が記載していないものがほとんどである。戦前から子どもたちの娯楽の中心にあった紙芝居を描いていた作家が貸本マンガ家に転身した作家として、白土三平、小島剛夕、水木しげるなどがいる。貸本マンガ家としてデビューし、後にメジャーとなった作家として、本宮ひろ志、つげ義春、池上遼一などがいる。

貸本マンガは戦後マンガ文化の原点として貴重なものであるが、当時の発行部数が 2、3 千冊しかなく残存率は極めて低い。当時の世相、マンガ表現技法、作品に込められたメッセージなどを知るのに第一級の貴重な資料であるので、国の助力を得てその保存を進めていきたい。熊本マンガミュージアムプロジェクト代表の橋本氏は貸本屋の店頭から処分されそうになっていた本を数十年にわたって集め続け、今では約 3,000 冊の貸本マンガコレクションとなっている。今回データ入力した約 2,000 点の貴重書のうち、1,500 点が貸本マンガである。

第5章 実施内容

- 月刊誌マンガ付録…1949年頃から月刊マンガ雑誌の創刊が始まり、60年代にはピークを迎えた。当時は本誌に掲載されていたマンガの続きを別冊付録マンガに収録して読者の関心をおおっていた。雑誌の流通は新刊書店であり、貸本屋が裏の流通ルートとすれば、新刊書店は表の流通ルートといえる。

サイズはB6、B5が中心で、発行元は講談社、集英社など多くが大手出版社、作者としては手塚治虫、横山光輝、藤子不二雄、赤塚不二夫などが多い。比較的薄手のものが多く、紙質もよくないので、貸本マンガと同様残存率が極めて低い。付録マンガは独立した内容の作品になっているものが多く、また付録マンガでしか読めないエピソードもあるのでマンガ研究の上では欠かせない素材である。橋本コレクションの中には付録マンガが1,000点ほどあり、今回データ入力したのは約450点である。

② 合志市事業内容

熊本マンガミュージアムプロジェクト所有の資料を西合志合志議会棟（熊本県合志市）に保管しており、西合志合志議会棟と共同収蔵庫間の相互移動、それに伴う分類整理作業（重複チェック、書誌登録作業）を、雑誌や貴重書の入力作業と同じ方法で行う。

5.2 各管理館の目的

5.2.1 京都国際マンガミュージアムの目的

過去に京都 MM に寄贈され、そのまま倉庫に保管していた単行本・雑誌を、仕分け作業をせずに熊本共同収蔵庫に直送した。京都 MM ではしなかった重複チェックと正本登録作業を共同倉庫にて行った。共同収蔵庫で文化庁データベースに入力された正本データを事業終了後、文化庁データベースからダウンロードし、京都 MM の OPAC にデータを移管し登録することで作業の効率化を図った。

5.2.2 北九州市漫画ミュージアムの目的

過去に寄贈されたが複本となっている雑誌を熊本漫画ミュージアムプロジェクトに再寄贈することで、新たな利活用モデルを検討する。

5.2.3 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの目的

5.2.3.1 共同収蔵庫

サテライト収蔵としての機能を発展的に強化する。継続的な活動として、各管理館から送られてくる単行本・雑誌を荷受けし、重複チェックの上、正本はデータ入力してサテライト収蔵資料として保管する。複本は、クママンに再寄贈される。それらは、内容で簡易仕分けをして段ボール箱に入れて共同収蔵庫に保管する。加えて、今年度は利活用モデルを試験するため、共同倉庫内の複本資料を整理して、再寄贈や貸出のためのセット組みをするための準備を整える。

第5章 実施内容

5.2.3.2 貴重書収蔵場所

貴重書のリスト化と保管方法を検討する。

共同収蔵庫内の貸本マンガ資料、ふろくマンガ資料の基礎情報を Excel リストに簡易入力し、カラーコンテナに整理して保管する。

5.2.3.3 合志市

熊本マンガミュージアムプロジェクト所有の資料を西合志合志議会棟に保管しており、西合志合志議会棟と共同収蔵庫間の相互移動、それに伴う分類整理作業（重複チェック、書誌登録作業）を行い、今後の活用を検討する。

5.3 各管理館の取組対象

5.3.1 京都国際マンガミュージアムの取組対象

- ① 別倉庫として借用している「待賢倉庫」（京都市）内の未整理の寄贈単行本ダンボール 200 箱（約 9,600 冊）の共同収蔵庫への移送。
- ② 「待賢倉庫」内の未整理の寄贈雑誌ダンボール 500 箱（約 26,800 冊）の共同収蔵庫への移送。

5.3.2 北九州市漫画ミュージアムの取組対象

新規寄贈受入資料のうちの複本 2,000 冊の共同収蔵庫への移送。

5.3.3 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの取組対象

5.3.3.1 共同収蔵庫

- ① 昨年度京都からの受入単行本の未作業分 91 箱（約 5,460 冊）の入力処理。
- ② 京都からの受入単行本 200 箱、内 94 箱（約 4,500 冊）の入力処理。
- ③ 京都からの受入雑誌 500 箱、内 150 箱（約 8,000 冊）の入力処理。

5.3.3.2 貴重書収蔵場所

熊本マンガミュージアムプロジェクト橋本代表自宅から共同収蔵庫に移送した貴重書 2,000 点の Excel リスト簡易入力処理。

5.3.3.3 合志市

西合志市資料（雑誌 7,000 冊・単行本 23,000 冊）の移送と入力作業。

5.4 各管理館の作業概要

5.4.1 京都国際マンガミュージアムの作業概要

「待賢倉庫」内で対象資料箱を選別（単行本 200 箱・雑誌 500 箱）し、対象資料箱に箱番号シールを貼付してトラック積込みし発送する。

5.4.2 北九州市漫画ミュージアムの作業概要

今年度、新規に受け入れた寄贈資料（主に個人より）のうち、複本と収蔵対象外資料（雑誌やノベライズ小説など）を選り分けて共同収蔵庫に移送し、熊本マンガミュージアムプロジェクトへの再寄贈を行う。また、前年度以前の寄贈資料や蔵書のうち、収蔵の必要性が薄いと判断された複本の類もまとめて移送・再寄贈する。

5.4.3 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの作業概要

5.4.3.1 共同収蔵庫

人材育成のため、入力レクチャーについては10月と11月の2回行った。10月は過去入力実績のある単行本を中心にレクチャーし、作成済みのマニュアルを元に間違いやすい部分を重点的にレクチャーを行った。単行本作業に慣れた11月に雑誌のレクチャーを行った。

【入力レクチャー概要】

- ・ 2016年10月11日（火）～12日（水）
現地にて熊本作業スタッフに単行本入力ルールに関するレクチャーを実施（12時間）
- ・ 2016年10月13日（木）～14日（金）
Skypeにて熊本作業スタッフに単行本入力時の注意事項に関するレクチャーを実施（8時間）
- ・ 2016年10月19日（水）～20日（木）
現地にて熊本作業スタッフに所蔵データ入力作業と資料管理に関するレクチャーを実施
- ・ 2016年11月9日（水）～11日（金）
現地にて熊本作業スタッフに雑誌入力に関するレクチャーを実施（12時間）

【雑誌を対象とした作業の注意点】

- ・ 雑誌を対象とした作業については当初単行本と同様に作業室での重複チェック、所蔵情報入力作業を想定していたが、サイズの大きい雑誌は移動自体で単行本と比べ倍以上の負荷がかかる為、管理側で雑誌タイトル別の「作業シート」を作成、それに記入する形で収蔵庫内での作業を実施した。（同作業の対象は冊数の多い週刊誌・隔週刊誌に限定）
- ・ 作業シートは随時文化庁データベースに所蔵情報の一括登録を依頼した。
- ・ 月刊誌についてはノートPCを倉庫に持ち込み、Wi-Fi通信でネットに接続して倉庫内で文化庁データベースによる重複チェック、所蔵情報入力作業を実施した。

第5章 実施内容

- ・ 「雑誌書誌情報」「雑誌巻号情報」については作業効率を鑑みて作業前にあらかじめ別置して雑誌所蔵情報の登録に絞って作業を進めた。書誌・巻号の登録はスタッフ育成の観点から作業最終段階でテスト的に実施した。

【単行本作業の注意点】

- ・ 単行本入力については昨年度同様、文化庁データベースによる重複チェックで書誌情報の確認後、書誌情報・所蔵情報を入力した。

5.4.3.2 貴重書収蔵場所

初めての作業となるため2016年11月11日（金）に熊本マンガミュージアムプロジェクト橋本代表と打ち合わせを行い、貴重書登録に合うExcelシートを作成し入力を行った。

- ・ 2016年11月11日（金）～12日（土）
現地にて熊本作業スタッフに池川氏からの貴重資料Excel入力に関するレクチャーを実施。
（6時間）

5.4.3.3 合志市

移送は熊本マンガミュージアムプロジェクトスタッフにて実施し、入力方法は雑誌・単行本や貴重書と同一とした。

5.5 共同収蔵庫

京都国際マンガミュージアム等にて受け入れた寄贈資料（雑誌を主体とする）について、重複分を共同収蔵庫へ送り、ネットワーク参加施設の共同保管資料として、以下の運用を行う。

- ① 寄贈資料の受入作業について、共同収蔵庫の人員を京都国際マンガミュージアムへ派遣するか、寄贈された状態のまま共同収蔵庫へ送付して、共同収蔵庫側で仕分けするなど、受入作業（仕分け作業）のアウトソーシングの方法についても検討し、試験的に実施する。
- ② 熊本マンガミュージアムプロジェクト資料については、希少で貴重な資料が多数あり、未整理状態で収蔵されている。これら貴重資料の整理と基礎データの作成を行い、共同収蔵資料を利活用する基盤（現物資料と情報）を整備する。
- ③ 共同収蔵庫の共同保管資料群、および昨年度に共同収蔵庫に移動した（正本の）サテライト収蔵資料群から、企画展やイベントなど各施設の展示事業に即して選書し、各施設へ移管あるいは返送するなど、共同収蔵庫からの出納と融通についても試験的に実施する。

第6章 成果と課題

第6章 成果と課題

6.1 各管理館の成果

6.1.1 京都国際マンガミュージアムの成果物

計画通り 700 箱（約 36,400 冊）の出庫が完了している。

6.1.2 北九州市漫画ミュージアムの成果物

今年度の寄贈冊数が計画より少なかったこともあり 21 箱（約 1,500 冊）の出庫となったが、完了している。

6.1.3 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの成果物

【雑誌・単行本登録】

項目	今年度	前年度
処理箱数	335 箱 (単行本 75 箱 雑誌 260 箱)	211 箱 (単行本のみ)
処理冊数	11,174 冊 (単行本 4,572 冊 雑誌 6,602 冊)	14,642 冊 (単行本のみ)
1 日あたり処理件数	単行本 122.5 冊 (対前年 44.7 冊) 雑誌 78.07 冊	単行本 77.88 冊 雑誌 実施せず
1 件当たり処理時間	単行本 3.68 分 (対前年 1.66 冊) 雑誌 2.4 分	単行本 2.02 分 雑誌 実施せず
正本／複本率	単行本 正本：複本＝13：87 雑誌 正本：複本＝72：28	単行本 正本：複本＝22：78

処理箱数については、昨年度とほぼ同じ作業期間であったにもかかわらず、124 箱多く作業ができている。しかし、処理冊数で見ると昨年度より 3,468 冊少ない結果となっており、1 箱あたりの数が単行本であれば約 60 冊あるのに対し、雑誌は約 25 冊しかないことが分かる。この差は、作業効率に大きく影響しており、直接的要因としては、運搬時の負荷が大きく、1 日当たりの処理件数は単行本で大幅に増加、雑誌についても昨年度の単行本とほぼ同数にもかかわらず、1 件当たりの処理時間が増え、その結果処理冊数が昨年度を下回る結果となっている。

作業後半は倉庫内で作業することで、運搬時のロスを削減する方法を採用したが、空調のない倉庫での作業ということもあり、休憩を取りながら作業する必要があった。

第6章 成果と課題

【貴重書】

貴重書・付録本登録に関する基礎的な情報が確定しexcelシート上での管理が可能となった。また、最終的に1,998冊の作業が完了し、貴重書の管理について大きな前進となった。(全データを付録に収録)

The screenshot shows an Excel spreadsheet with a grid of data. The columns include book titles in Japanese, author names, and publication details. The data is organized into rows, with some cells containing specific details like volume numbers and series names. The spreadsheet is titled 'D1213' and '血笑'.

図 6-1

※貴重書をデータ化する際に気づいた点

- ① 貸本漫画のデータ化に当たって、最近のマンガとは違う事情があることに気づかされた。まずはタイトル表示が表紙、背表紙、奥付けによって不統一のものが目立ったことである。最もコンパクトに表示してあるのは背表紙であるので、基本的に背表紙を基準にして入力するように統一することにした。
- ② 通し番号にも課題がある。番号が重なっていたり、飛んでいたりしていることもあったが、あくまで現物の表示に従うことにした。発行年月日については記載があるものは太平洋文庫ぐらいしかなく、多くは記載がない。作者が原稿アップの日付を入れている場合もあるが、それはあくまで参考情報にとどめて発行年月日には記入しないこととした。
- ③ 付録マンガについては最大の障害は、本誌との繋がりがわからないことである。本誌のタイトルと月号は記載してあるものの、それが何年のものかの記載がない場合が多かった。これは現在進行中の雑誌のデータベース化の進行を待って、本誌との紐付けを進めていく。

【合志市マンガ関連文化施設】

プレミアム本 800 点の書誌データ、雑誌タイトル、年代、号数別に区分した 700 点のパッケージの作成が完了した。

●活動詳細（費用含む）

- ① 移動に関する費用…80,000 円（②+③）
- ② 運搬費…20,000 円
- ③ 分類整理費…60,000 円
- ④ 搬入搬出点数…3,500 点
- ⑤ 西合志にあるプレミアム本・単行本を共同収蔵庫に移動…2,000 点
- ⑥ 共同収蔵庫にある雑誌・単行本を西合志に移動…1,500 点(合志市マンガ関連文化施設での展示、閲覧用)
- ⑦ 重複チェック数…2,000 点のプレミアム本、雑誌をチェック。

6.2 事業全体の課題

サテライト収蔵先として熊本の共同収蔵庫を設定し、正本の所蔵先としたが、複本率の高さや、正本と所蔵元である施設との連携（OPAC などの入力を含む）に課題が残っている。詳細は以下各館からの課題報告で述べる。

6.2.1 京都国際マンガミュージアムの課題

京都国際マンガミュージアムでは収蔵スペースの不足から館外サテライト収蔵は望まれる。但し、サテライト収蔵資料の展示や研究利用などでの活用を考えた時に以下の 3 点が現状の共同倉庫の課題として挙げられる

- ① 地理的な問題・・・京都熊本間の距離を考えると、運送費用・運送時間の面でサテライト資料の活用には問題が多い。
- ② 人力的な問題・・・文化庁事業の実施外の期間（4 月～7 月）に共同倉庫資料を管理するスタッフが常駐していない。
- ③ スペース的な問題・・・今年度で共同収蔵庫の空きスペースはほぼなくなった為、今後は数百箱単位の運び込みは物理的に困難。

6.2.2 北九州市漫画ミュージアムの課題

正本のサテライト収蔵庫として活用するには、まず、常駐するスタッフの確保が必要となるため現在の共同収蔵庫の機能では、難しいと感じている。また、外部から他施設のスタッフがシステムにアクセスすることは制限されているため、現実的な課題が残っている。

第6章 成果と課題

複本の収蔵庫としての機能であれば、現実的である。今回、再寄贈した資料はすべて、熊本漫画ミュージアムプロジェクトに、その活用方法をお任せできる資料に限定し出庫している。受け入れ館の裁量をどこまで認めるかも今後の課題といえる。(寄贈者への確認事項を明確にすべき)

6.2.3 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトの課題

- ① 資料保管環境の整備 (温湿度管理、棚設置)・・・サテライト収蔵資料や複本資料を良いコンディションで保管するためには、倉庫内の温湿度管理や防塵対策が必須となる。
- ② 倉庫内での作業環境の改善 (冷暖房機器)・・・今年度の雑誌作業で、倉庫内で雑誌タイトル別に一時仕分けをした上でのPCを持ち込んでの入力作業の場合、作業効率が飛躍的に高まることが確認できたが、倉庫内に空調が無いので、夏と冬の時期の作業は労働環境として適しているか検討が必要な状況となっている。
- ③ 倉庫レンタルスペース拡張 (東半分)・・・これまでの事業で運び込んだ共同保管資料によって倉庫空きスペースが枯渇しているため、倉庫東半分のレンタルスペースの拡張が必要(もしくは別の関東・関西地域の倉庫の借用)
- ④ 複本データベースの作成・・・現在、共同収蔵庫内を占有している複本資料の有効活用のために、同一書誌の保管冊数を把握可能な機能を持った複本データベースが必要(文化庁データベースに追加機能として搭載するか、別個のシステムとして構築する必要がある)
- ⑤ 人材育成のためのレクチャーの継続的実施・・・今年度は事業当初に池川氏の協力も得て、短期間集中的に作業レクチャーを行い、その成果として入力ミスが削減できた。作業で得た個人の知見を蓄積しマニュアル化を経て次年度に活かしていく為には、人材育成と雇用の継続が必要となる。
- ⑥ 貴重書の継続的作業・・・今回貴重書として貸本漫画と付録マンガを取り上げたが、全体の三分の一程度しか終わっていない。文化庁データベースには貴重書がまだ登録されていないが、登録のためには少なくとも熊本マンガミュージアムプロジェクト所蔵分のデータ化を終わらせること、入力の際のマニュアルを明確に定めることが必要である。
- ⑦ 貴重資料のデータベース化・・・貴重書として熊本マンガミュージアムプロジェクトが考えているのは、貸本漫画、付録マンガの他に、昭和20年代半ば以降、駄菓子屋や露店で販売されていた「玩具系赤本漫画」、1970年代にほぼ姿を消した「月刊漫画雑誌」、戦前から出版されている「学年誌」、1970年代に始まった「初期新書版コミックス」、貸本漫画と同時期に貸本屋出流していた「貸本小説」、探偵モノ、ホラーモノ、SFモノの「児童ムック」などである。これらの熊本マンガミュージアムプロジェクトが所蔵するには、戦前、戦後のマンガ文化の基礎をなす貴重な資料であるが分類、整理、データ化がほとんど進んでいない。

6.3 展望

正本をサテライト収蔵するのではなく、複本の所蔵先(複本バンク)としての機能を充実させる方向性が望ましいのではないかと。複本バンクを充実させることで、慢性的に資料が過剰となっている施

第6章 成果と課題

設から複本バンクに寄贈し、資料が不足している施設が自由に必要な資料を取り寄せることができるようにするために、複本リストを整備する必要がある。本事業では、正本の登録を重視しているため、複本リスト作成には着手できていない。まずは、複本登録のルール作りから始める必要性を感じている。

また、貴重書のリスト作成が進んだことで、メディア芸術データベースを使った貴重書の所蔵登録にも大きな一歩を残すことができた。継続的に貴重書の利用促進を進める必要がある、

6.4 調査と研究

調査内容の詳細については、別紙にて紹介する。

6.4.1 公共図書館への調査

(株) 図書館流通センターの協力により、関西九州の 6 つの府・県の公共図書館（市立図書館レベル）23 館に対して、マンガ資料の活用に関する調査を実施、19 館から回答を得た。調査内容は、マンガ資料の取扱方針、活用事例、共同収蔵資料の受入可否であったが、半数ほどの館が収集の方針を持っているが、取組みの実施や新規受入については、今後の検討待ちという状況である。但し、少しずつではあるが、マンガ資料活用の方向性を模索する様子もうかがえる為、今後情報交換等を行いつつ、連携の可能性を探っていきたい。

【 調査内容 】（詳細は別紙参照）

- ① マンガ資料の取扱の方針
- ② マンガ資料を活用した取組みを実施（企図）しているか、している場合はその概要
- ③ 共同収蔵庫に所蔵する、重複マンガ本について受入を希望するか、希望する場合は、希望する受入形態。

6.4.2 北海道立図書館での現地調査

栗田ブックセンター（註1）から寄贈された資料約 14 万点を所蔵する、北海道立図書館を訪問し、栗田文庫におけるマンガ資料の概要把握とマンガ資料の共同収蔵に関する意見交換を実施した。

栗田文庫におけるマンガ資料の調査では、単行本としては昭和 20～30 年代の貸本マンガを主体とした約 2,300 点所蔵リストを入手、資料の由来からか保管状態は大変良好であることを確認している。また昭和 24～49 年に刊行されたすべての雑誌も寄贈されており、これらの中には、マンガ雑誌や学年誌なども含まれている。

入手した単行本リストについては、「文化庁データベース」との照合などを実施していく予定である。

註1 出版物の取次店であった栗田出版販売（株）が、国内で出版されたすべての図書を一堂に展示

第6章 成果と課題

する目的で、昭和27年に出版資料館として設立した。昭和38年までに11万4千冊を収集展示していたが、昭和38年に北海道立図書館に寄贈され、その後雑誌資料なども寄贈された。

マンガ資料の共同収蔵・共同利用については、今後情報交換を行いつつ連携の内容を模索することになるが、北海道に関係した資料を収集保管する「北方資料」において、北海道を舞台にしたマンガ資料も対象としており興味深い。地元出身のマンガ家の作品を収集することは珍しくないが、作品内容を確認した上で収集する対象として、マンガを含めていることは、複本マンガの新たな活用のあり方に示唆を与えてくれる。

6.5 シンポジウム

2017年1月13日（金）くまもと県民交流会館パレアにてシンポジウムを開催した。

6.5.1 カレントコンテンツでの広報

カレントコンテンツでの広報内容を掲載する。

シンポジウム

「施設間連携でひらく、マンガ資料の収集と利活用の可能性」

開催のお知らせ

文化庁が実施する「メディア芸術連携促進事業」では、全国のマンガ関連施設や団体が連携することにより、マンガ出版物（雑誌と単行本）およびマンガ原画のアーカイブの事業モデルを構築してきました。この度、このモデルを説明した上で、今後どのようにマンガ文化の史資料を収集して、活用していくかを話し合うシンポジウムを開催します。

本シンポジウムでは、膨大なマンガの〈出版物〉と〈原画（原稿）〉という二つの事業の関係者が、それぞれの実践の報告をすると共に、本来その方法論が全く異なる二つの事業が協働することの意義について議論します。また、地域活性化の政策や事業と結びつきながら、先進的にマンガ史資料の収集と活用に努めてきた熊本の官・学・民の代表者と、同事業との連携に関する今後の展開についての具体的な可能性と課題を考察します。最後に、全国のマンガ史資料関連施設の関係者も加わり、各施設が抱える問題を共有しつつ、マンガ文化を“オールジャパン”で集めることの意義と、今後連携していくための課題について話し合います。

・シンポジウム名：

「施設間連携でひらく、マンガ資料の収集と利活用の可能性」

文化庁 平成28年度「メディア芸術連携促進事業」

第6章 成果と課題

「施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管と人材育成環境の整備」、「関連施設の連携によるマンガ原画管理のための方法の確立と人材育成環境の整備」合同シンポジウム

・日時： 2017年1月13日（金）13：00～17：30 ＊12：30開場

・場所： 「くまもと県民交流会館パレア」 9階「会議室3」

〒860-8554 熊本市中央区手取本町8番9号テトリアくまもとビル

・参加費：無料

・定員：45名

・参加方法：申込不要、当日先着順

・パネラー（予定、順不同）：

伊藤遊（京都精華大学国際マンガ研究センター）、橋本博（NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト）、表智之（北九州市漫画ミュージアム）、ヤマダトモコ（明治大学 米沢嘉博記念図書館）、大石卓（横手市増田まんが美術館）、烏田順子（広島市まんが図書館）、長谷川一栄（新潟市文化スポーツ部文化政策課）、吉村和真（京都精華大学）、鈴木寛之（熊本大学）、小川剛（崇城大学）、鶴本市朗（熊本県立図書館/くまもと文学・歴史館）、渡辺紀子（合志市政策課）

・シンポジウム次第

〔13：00～13：10〕＜主催者あいさつ＞

＜第1部 マンガ文化を集める——〈出版物〉×〈原画〉＞

2つの文化庁事業のこれまでの成果を報告し、両事業が協働することについての意義について議論します。

〔13：10～13：30〕事業報告

「施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管と人材育成環境の整備」

伊藤遊（京都精華大学国際マンガ研究センター）

〔13：30～13：50〕事業報告

「関連施設の連携によるマンガ原画管理のための方法の確立と人材育成環境の整備」

ヤマダトモコ（明治大学 米沢嘉博記念図書館）

〔13：50～14：30〕ディスカッション

伊藤遊（京都精華大学国際マンガ研究センター）

橋本博（NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト）

表智之（北九州市漫画ミュージアム）

ヤマダトモコ（明治大学 米沢嘉博記念図書館）

大石卓（横手市増田まんが美術館）

吉村和真（京都精華大学/コメンテーター）

＜第2部 マンガ文化のアーカイブと地域振興＞

マンガ・アーカイブの活用と地域振興とを結びつける可能性について、官・学との連携において動きつつある熊本を具体的な例に、議論します。

第6章 成果と課題

〔14：30～14：50〕事例報告

マンガ・アーカイブの活用（1）――「クママン」の活動から

橋本博（NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト）

〔14：50～15：10〕事例報告

マンガ・アーカイブの活用（2）――マンガミュージアムを作る

渡辺紀子（合志市政策課）

〔15：10～15：50〕ディスカッション

橋本博（NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト）

渡辺紀子（合志市政策課）

鈴木寛之（NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト／熊本大学）

小川剛（崇城大学）

鶴本市朗（熊本県立図書館／くまもと文学・歴史館）

＜第3部 マンガをオールジャパンで集め・活用する＞

マンガ文化を“オールジャパン”で集めることの意義と、今後連携していくための課題などについて、各地のマンガ関連文化施設の関係者と議論します。

〔16：00～16：20〕事例報告

「広島市まんが図書館」におけるマンガ・アーカイブの現状と課題

烏田順子（広島市まんが図書館）

〔16：20～16：40〕事例報告

「新潟市マンガ・アニメ情報館」におけるマンガ・アーカイブの可能性と課題

長谷川一栄（新潟市文化スポーツ部 文化政策課 マンガ・アニメチーム）

〔16：40～17：30〕ディスカッション

烏田順子（広島市まんが図書館）

長谷川一栄（新潟市文化スポーツ部 文化政策課）

表智之（北九州市漫画ミュージアム）

吉村和真（京都精華大学）

伊藤遊（京都精華大学国際マンガ研究センター）

主催：文化庁

運営：京都精華大学国際マンガ研究センター、NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト

お問い合わせ：京都精華大学 文化庁事業推進室 TEL 075-702-5180（月～金 10：00～17：00）

E-mail stbs02@kyoto-seika.ac.jp

*文化庁メディア芸術連携促進事業・連携共同事業について

第6章 成果と課題

文化庁では平成27年度より「メディア芸術連携促進事業」を実施しています。「施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管と人材育成環境の整備」、「関連施設の連携によるマンガ原画管理のための方法の確立と人材育成環境の整備」はその一環として実施しているものです。平成27(2015)年度実施分の報告書は、以下のウェブサイトからご覧になれます。

「施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管事業」報告

<http://mediag.jp/project/project/post-5.html>

「関連施設の連携によるマンガ原画管理のための方法の確立と人材の育成」報告

<http://mediag.jp/project/project/post-3.html>

* 「メディア芸術連携促進事業」につきましては、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://mediag.jp/project/>

6.5.2 シンポジウムの内容

シンポジウム

「施設間連携でひらく、マンガ資料の収集と利活用の可能性」

<第1部 マンガ文化を集める——〈出版物〉×〈原画〉>

ポピュラーカルチャーの人気の国内外で高まる中、マンガを文化資源としてアーカイブ（保存・活用）して運用・展開を図ろうという機運が高まってきた。マンガ資料には「出版物（雑誌・単行本）」と「原画」があるが、近年は出版物に加えて原画にも社会的関心が集まっている。一方、マンガ家の高齢化に伴い、作家や遺族が管理できなくなった原画は散逸・劣化の危険にさらされている。文化庁が平成27年度より実施する「メディア芸術連携促進事業」では、マンガの出版物と原画をそれぞれ対象とする2つの事業「施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管と人材育成環境の整備」と「関連施設の連携によるマンガ原画管理のための方法の確立と人材育成環境の整備」により、マンガ・アーカイブのモデルを構築してきた。両事業のこれまでの成果を伊藤遊氏（京都精華大学国際マンガ研究センター）とヤマダトモコ氏（明治大学 米沢嘉博記念図書館）が報告した後、両事業が協働する意義について関係者が会場からの意見も交えながら話し合った。

○ 大衆消費文化であるマンガは、原画の企画展でも高い入場料を設定しにくい。グッズ収入に頼っているのが現状だ。好きなマンガ家の原画を見ているだけで幸せというファンもいるが、ストーリーマンガの原画1枚では、絵画のように観賞できないという日本人が大半ではないか。原画さえ並べ

第6章 成果と課題

ておけばいいという安易な考えでは、そのうち飽きられる。マンガ文化の全体像を捉えるのに出版物と原画は切り離せない。関連させながらアーカイブしてこそ展示にも奥行きを持たせられる。

○ 美術館・博物館には学芸員が、図書館には司書がいるのに、ほとんどのマンガ関連施設には専門家が常駐していない。施設に児童・生徒を引率して来る先生方もマンガ資料の知識は持っていない。資料の収集と併せて、マンガを語れる人材を育成・配置していかなければ利活用は望めない。

○ かつてアメリカでは、「コミック」は子どもの読み物として軽視されていた。日本のマンガのように社会問題まで扱うマンガを「グラフィック・ノベル」として「コミック」と区別したことで、マンガに対する認識が変わってきた。今では全米図書館協会などが毎年、推薦リストを公開するほどだ。

<第2部 マンガ文化のアーカイブと地域振興 >

出版物であれ原画であれ、膨大なマンガ資料を施設が独自に集めることには限界がある。マンガ雑誌・単行本の共同保管事業では、全国の施設が共同収集・協働整理・協働保存・共同活用できるシステムを構築するため、熊本市内に貸借した共同収蔵庫(森野倉庫)と京都国際マンガミュージアム(京都MM)、北九州市漫画ミュージアム(北九州MM)、NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト(クママン)の3施設でマンガ資料の共同収蔵実験を展開している。マンガ家、マンガ研究者を数多く輩出している熊本県にはマンガ文化に協力的な自治体が多い。クママンは熊本にマンガミュージアムを設立することを目指して2010年に結成された。2017年には人口6万人の合志市に合志マンガミュージアムが開館する。橋本博氏(NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト)と渡辺紀子氏(合志市政策課)の事例報告の後、マンガ文化のアーカイブと地域振興の可能性と課題について熊本の官・学・民の代表者と会場参加者が共に考えた。

○ マンガはその娯楽性から「なぜ公共施設でマンガなのか」を常に問われる。社会的意義を唱えるだけでなく、地域にどう還元できるのか説明することが必要だ。地域振興といっても、住民サービスの向上もあれば、観光集客による地域経済の活性化もある。いずれにせよ「攻め」の姿勢や即効性が求められる以上、アーカイブのような地道な取り組みに対して地域住民の理解を得るのは難しい。

○ 文化施設の重要な役割の一つに教育がある。欧米では珍しくないが、日本でも夏休みに館内見学とセットにしたワークショップ形式のイベントを開催する美術館・博物館が増えてきた。マンガは読むのも描くのも好きという人が多い。マンガ関連施設においても、マンガ家の指導を受けられるワークショップを企画するなど、教育的側面を強みにしていくことが可能だろう。

○ 地域出身のマンガ家を顕彰する目的でつくられた施設は少なくない。類を見ない施設をつくることで地域とは縁もゆかりもないマンガ家の賛同を得られることもある。市町村合併により郷土への愛着は薄れつつあるが、わが町にはこんな施設があるんだという誇りの醸成に寄与することを願っている。

○ 地域の自然や文化、歴史が描かれたマンガには民俗資料としての価値もある。守るべき地域の財産として地域の人に周知していくことも大切だ。「この施設のおかげでマンガ家になりました」という人が出てくれば、地域の人材育成にも貢献していることをアピールできるのではないかな。

第6章 成果と課題

＜第3部 マンガをオールジャパンで集め・活用する＞

各施設が抱える問題を共有するため、新旧2館の関係者を招いた。全国で唯一のマンガ専門の公立図書館として20年近い歴史を持つ広島市まんが図書館は、所蔵資料の増加により飽和状態の書架への対応に苦慮している。マンガ・アニメを活用したまちづくり構想を策定し、2013年にマンガの家、マンガ・アニメ情報館を開館させた新潟市も、施設内の展示スペースが不足し、資料の保管場所を探す必要に迫られている。烏田順子氏（広島市まんが図書館）と長谷川一栄氏（新潟市文化スポーツ部文化政策課 マンガ・アニメチーム）から公共施設の現状を聞いた後、マンガ文化をオールジャパンで集めることの意義と、今後連携していくための課題について、全国のマンガ関連施設の関係者と話し合った。

○ 大人には懐かしいマンガでも、若者には新たな発見となり得る。マンガ雑誌・単行本は絶版までの期間が短く紙質が弱いので、10年前に発行されたものでも入手できないことは珍しくない。手塚治虫氏を名前でしか知らない世代が現物を手にとって見られる意味は大きい。合志マンガミュージアムの運営が軌道に乗れば、類似施設の開設を検討中の自治体にとっても大きな励みになるに違いない。

○ 東京都の「立川まんがぱーく」は、子育て・教育支援の拠点としてオープンした立川市子ども未来センターの中にある。家族全員でマンガを楽しめるよう各世代に人気のマンガをそろえ、授乳室を備えた女性用パウダールームやミニキッチンまで用意されているのが特徴だ。過去にはマンガの「敵」だった親世代を引き込むマンガ収蔵施設の新しい在り方が提示されている。

○ 一般の図書館でもマンガを求める利用者は増えている。ポピュラーカルチャーとしてのマンガの魅力を考えれば、関連施設だからといって特定の作家や作品にこだわる必要はないのではないか。施設も大きい必要はないだろう。作品の位置付けや意義の提示、見せ方の工夫において差別化を図るべきだ。

○ 各地の文学館でマンガ『文豪ストレイドッグス』をテーマにした企画展が開かれている。文学的アプローチにより新しいマンガの読み方の可能性が生まれたような気がする。文学だけでなく、マンガや映画といった幅広い分野の作品を収蔵する施設も出てきた。博物館的な機能を持つ文化施設が増えているともいえる。文化としてのマンガが見直される契機になることに期待したい。

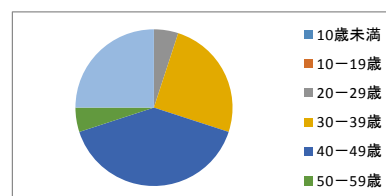
第6章 成果と課題

6.5.3 アンケート

シンポジウム会場でのアンケート調査に対して、20名の協力があり、集計結果は以下の通りとなった。

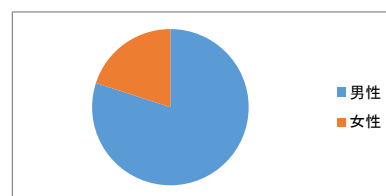
年齢別

	年齢	人数	割合
1	10歳未満	0	0.0%
2	10-19歳	0	0.0%
3	20-29歳	1	5.0%
4	30-39歳	5	25.0%
5	40-49歳	8	40.0%
6	50-59歳	1	5.0%
7	60歳以上	5	25.0%



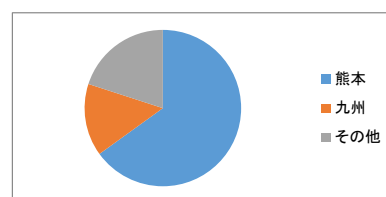
性別

	性別	人数	割合
1	男性	16	80.0%
2	女性	4	20.0%



居住地域別

	居住地域	人数	割合
1	熊本	13	65.0%
2	九州	3	15.0%
3	その他	4	20.0%



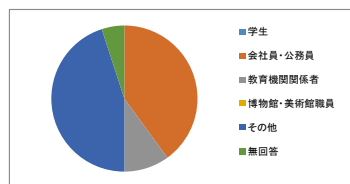
2九州内訳: 鹿児島県3名

3その他内訳: 東京都2名、新潟県1名、神奈川県1名

第6章 成果と課題

職業

	職業	人数	割合
1	学生	0	0.0%
2	会社員・公務員	8	40.0%
3	教育機関関係者	2	10.0%
4	博物館・美術館職員	0	0.0%
5	その他	9	45.0%
	無回答	1	5.0%

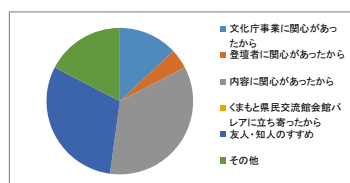


その他内訳

大学教員	1
絵描き、マンガ研究者	1
CGデザイナー	1
会社経営	2
コレクター	1
NPO	1
会社役員	1
登壇するため	1

参加した目的・動機 (複数回答可)

	目的・動機	人数
1	文化庁事業に関心があったから	3
2	登壇者に関心があったから	1
3	内容に関心があったから	8
4	くまもと県民交流館会館/レアに立ち寄ったから	0
5	友人・知人のすすめ	7
6	その他	4

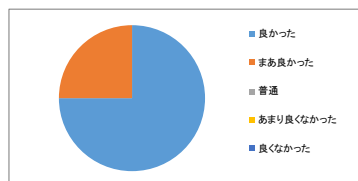


その他内訳

クママンメンバー	2
登壇予定	2

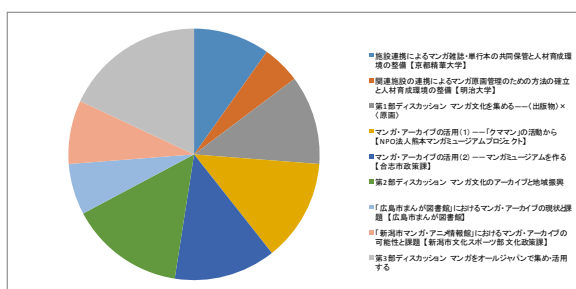
印象

	職業	人数	割合
1	良かった	15	75.0%
2	まあ良かった	5	25.0%
3	普通	0	0.0%
4	あまり良くなかった	0	0.0%
5	良くなかった	0	0.0%



興味を持った内容 (複数回答可)

	目的・動機	人数
1	施設連携によるマンガ雑誌・単行本の共同保管と人材育成環境の整備【京都精華大学】	6
2	関連施設の連携によるマンガ原画管理のための方法の確立と人材育成環境の整備【明治大学】	3
3	第1部ディスカッション マンガ文化を集める——(出版物)×(原画)	7
4	マンガ・アーカイブの活用(1)——「クママン」の活動から【NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト】	8
5	マンガ・アーカイブの活用(2)——マンガミュージアムを作る【合志市政策課】	8
6	第2部ディスカッション マンガ文化のアーカイブと地域振興	9
7	「広島市まんが図書館」におけるマンガ・アーカイブの現状と課題【広島市まんが図書館】	4
8	「新潟市マンガ・アニメ情報館」におけるマンガ・アーカイブの可能性と課題【新潟市文化スポーツ部 文化政策課】	5
9	第3部ディスカッション マンガをオールジャパンで集め・活用する	11



第6章 成果と課題

感想など

年齢	性別	居住地域	職業
20-29歳	男性	熊本	その他 (CGデザイナー)
マンガ、アニメを教育とつなげる件と仕事が東京に集中している点。地方に税金がおちるような職業との連携や仕組みが必要だと思います。			
年齢	性別	居住地域	職業
30-39歳	男性	熊本	会社員・公務員
「物」がどうしてもクローズアップされて、人や企画、教育に市の関心・予算が向きにくいので、現場の方から再三それらが大事とおっしゃっていただき、ほっとしました。			
年齢	性別	居住地域	職業
30-39歳	男性	熊本	会社員・公務員
とても勉強になった。もっといろんな話を聞きたかった。			
年齢	性別	居住地域	職業
40-49歳	男性	熊本	会社員・公務員
公共図書館など在庫物の活用は大事だと思います。博物館も含め史書も学芸員もいる環境に漫画が入り込んでいくと進みやすいこともあると思いました。			
年齢	性別	居住地域	職業
40-49歳	女性	その他 (東京都)	その他 (大学教員)
とても勉強になりました。やはり結果は第三部のテーマに尽きると思います。そしてよりよいグローバルな解決策がありうる、と思っています。京都精華大学の国際戦略のノウハウを是非勉強させてください。			
年齢	性別	居住地域	職業
40-49歳	女性	その他 (神奈川県)	その他 (登壇者)
マンガの整理保存管理は物量との戦いと常々思っているのですが、だからこそ、競争ではなく連携、共存の方向にむかえるのだな、なかまがふえることが大切なジャンルなのだなと再認識しました。			
年齢	性別	居住地域	職業
60歳以上	男性	熊本	その他 (コレクター)
【7】の中の7)8)説明がすごい！印象に残りにくい			
年齢	性別	居住地域	職業
60歳以上	男性	九州 (鹿児島県)	その他 (会社役員)
最初は難しい話でどうかなあ〜と心配したのですが、その後は我々、鹿児島にとっても参考になる提言が多くなされ貴重な経験でした。ありがとうございます。			

第7章 総括

本事業は、所蔵資料の分量が収蔵スペースのキャパシティを超えて困っている、というマンガ本アーカイブ施設が、あふれた資料を一ヶ所に集め、共同で管理することはできないか、という発想から始まっている。アーカイブは、モノを整理すると同時に、それを管理するためのデータベースを作る必要があるが、この事業では、複数の施設・団体の資料の整理とデータベース化を、共同倉庫において、共通のスタッフが行う、ということが可能であることを実証したと言える。また、本年度は、昨年度にも対象としたマンガ単行本に加え、マンガ雑誌の整理とデータベース化を実施し、そこでかかるコストを計算すると同時に、作業、マニュアルを作成した。

アーカイブ事業は、その活用についても同時に考えていく必要がある。

ひとつには、これらの資料を、各所蔵館において行われている閲覧サービスへの対応ということが挙げられる。物理的に離れた“サテライト”に所蔵された資料を、誰が出納し、どのくらいの時間でいくらかけて“本館”に届け、また再び“サテライト”に戻すことができるか、ということの実験も行った。結論から言えば、この共同倉庫を、一種の“サテライト”施設として活用するためには、共同倉庫のインフラの整備はもちろん、管理出納スタッフの雇用など、マンガミュージアムをひとつ作るほどのコストがかかるであろうことが予測でき、現実的ではないという結論に至った。

しかしながら、マンガ資料の活用という意味では、この共同倉庫の別のあり方も見えてきた。この共同倉庫には、各施設が持ちきれなくなった正本が集められると同時に、それ以上の数の複本も集まったが、それらが、マンガ本の供給を必要としている別の施設のために活用される可能性がある、ということが判明したのである。実際、共同倉庫の複本は、リスト付きのパッケージとして再構成され、熊本県合志市に開館予定のマンガ関連文化施設に約1,500点が寄贈された。（本事業とは関係しないが、熊本地震の避難所には、クママン所蔵の複本がセット化され、コンパクトな書架に納められた「マンガ文庫」として、設置され、避難所の子どもたちに提供された。）

今後の共同倉庫のあり方としては、複数の限られた施設の「サテライト施設」としてというよりも、個人や施設が持て余しているマンガ本を集め、再寄贈することで活用を目指す「マンガプール」の可能性を追究していくことに意義を見出している。そのためには、資料を持て余している施設や、（新しくマンガ施設を作るため、）逆にマンガ本を必要としている地方自治体などの情報も収集していく必要があるだろう。北海道立図書館の調査は、その一環であった。また、特に公共図書館などが、この「マンガプール」へマンガ資料を寄贈したり、逆に寄贈されたりすることに、どのような（法的）問題があるかも考える必要がある。マンガ本をすでに集めている施設と、今後集めていきたいと考えている自治体などが参加したシンポジウムではそのことが議論され、問題を共有することができた。

共同倉庫を、それらを必要とする施設や自治体へ再寄贈されるマンガ本の「プール」として活用し

第7章 総括

ていくことを考える上では、著作権者や出版社などとの調整は不可欠であろう。例えば、再寄贈されるマンガ本は、現在一般的には流通していない古い作品や雑誌のみとする、といったルールの構築は今後の課題である。

付録

1 議事録

■ 全体会議_2016年10月23日

議 事 録

記録者 櫻井 記録日時 2016/10/23

会議名：文化庁事業全体会議

開催日時： 2016年10月23日（日曜日） 18時00分～21時30分

場 所： 京都国際マンガミュージアム 研究室1

出席者： NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト橋本先生

明治大学 米沢嘉博記念図書館ヤマダさん

（スカイプ参加）北九州市漫画ミュージアム表さん

京都国際マンガミュージアム伊藤研究員、雑賀研究員、櫻井、田中、佐和、市川

オブザーバー：寿限無池川さん

議 題：原画作業、雑誌単行本作業中間報告会に向けた意見交換

会議内容：

① 原画作業

○京都国際 MM（イトウ研究員）

- ・杉浦原画 400点、谷口原画 565点を貸借し作業予定。引き取りの日程調整が難航しているが、一度に運送することは考えず、準備をできたものから運送手配を進める。
- ・既に昨年度からの継続作業があるため、まずはそちらに着手している。
- ・今後の課題は画像データのバックアップ方法や今後の作業方法について検討が必要。
- ・著作権処理をどのように行うかも継続課題となっている。

○明治大学 米沢嘉博記念図書館ヤマダさん

- ・三原じゅん先生の原画スキャンは9月から順調に進んでいるが、正直、作業で手いっぱいになっている。今回の文化庁予算とは別で1名採用し作業を進めている。
- ・経済的で効率的なスキャン方法を採用しているが、記録用としては十分な画質が保てている。
- ・課題として感じているのは、①クラウド上の保管が今回のテーマの一つとなっているが継続性があるのか心配②予算が年間通して確保できないので、人材の採用と退職が必ず発生するため、スキルを身に付けた作業者が継続的に活躍できない。
- ・人材育成テーマには、理想と現実に大きな差があるので、どのように埋めていくかが問題
- ・全ての作業を推進する推進者（指導者）が必要
- ・「連携」というテーマをどこで実現するか

○北九州市漫画ミュージアム表さん

- ・権利者への許可を含む活用モデルを作っていく必要がある。

付録

- ・画像を保存しているハードディスクの耐性がどこまであるのか。破損した際にバックアップをどう残すのか、課題となっている。
- ・初出調査はかなり難航しそうなので、その際には他館の所蔵資料を活用させてもらいたい。
- ・アンケート調査は現在案を検討中。完成次第展開する。

○全体での意見交換

- ・今回の事業で育成した人材の次の展開を検討しないといけない。
- ・「修了証」などで証明することは可能かもしれない。(就職先などの優遇)文化庁にかかわる事業に参加したというだけでも十分なステータスとなりうるので、証明するものがあれば、有利になる。
- ・管理者での会議はあるが、作業員間での生の意見を交換する場を設定したい。
- ・初出調査とアンケートの連携を表現したい。

② 熊本作業

○NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト橋本先生

- ・単行本は昨年度の実績から、雑誌については教育体制が充実しているので昨年度よりも立ち上がりの品質やスピードは上がると感じている。
- ・当初設定の目標数が多すぎるため、目標数の再設定を提案したい。品質を確保するため承諾いただきたい。
- ・倉庫がかなりいっぱいになってきている。震災の影響もあり、本がさらに増えている。送り先の検討が急務となっている。非常に困っており良い案があれば教えていただきたい。
- ・西合志マンガミュージアムについては、2万冊程度の所蔵を予定しているので、あふれたマンガは倉庫に保管せざるを得ない。
- ・クママンの文化庁DBの設定がまだないので、作業したものを登録することができない。次年度に向けて課題として提案したい。

○北九州市漫画ミュージアム表さん

- ・大きな動きは、まだできていないが、今後着手する予定。(緊急で図書があふれているという状況ではない)

○全体での意見交換

- ・マンガがいっぱいのところを探してアンケートをするのではなく、マンガがほしいところを探す方がよいのではないか。
- ・行き先を探すのが先か、登録ノウハウの蓄積が先か、悩ましいところがある。
- ・海外からもほしいというオファーはあるが、送った後の動きが見えないので、注意が必要。

③ その他確認事項

- ・シンポジウムについては1月中旬予定。場所などは参加者に応じて検討する。
- ・中間報告会は11月8日。資料はイトウ研究員より発表予定。

付録

■ 雑誌・単行本PJ 省察会議_2017年2月12日

議 事 録

記録者 櫻井 記録日時 2017/2/12

会議名：雑誌・単行本PJ 省察会議（スカイプ使用）

開催日時： 2017年2月12日（日曜日） 15時00分～16時40分

場 所： 京都国際マンガミュージアム 研究室1

出席者： 橋本 博代表（NPO法人 熊本マンガミュージアムプロジェクト）
大石 卓主査（美術館チーフ・横浜市まちづくり推進部増田地域課地域協働係）
ヤマダ トモコ（明治大学米沢嘉博記念図書館スタッフ（展示担当））
表 智之専門研究員（北九州漫画ミュージアム）
伊藤 遊研究員（京都精華大学国際マンガ研究センター）
池川 佳宏（寿限無 デジタルアーカイブ推進室）
藤本 真之介（文化庁事業推進室）
田中克彦、櫻井壽人、佐和那々緒、市川圭（京都国際マンガミュージアム）

議 題：雑誌・単行本PJ 今年度の振り返り

会議内容：

今年度振り返り

- ・今年度も昨年度同様熊本の森野倉庫をサテライト機能の拠点として正本の所蔵施設に設定したが課題も見えてきたと思います。ご意見を伺えますでしょうか。（イトウ氏）
- 北九州市漫画ミュージアムとしては、今年度も再寄贈としてお渡ししているので、正本は送っていない。現実的に人が常駐する施設にしか正本を置くことは難しいのではないかと。また、正本を置くとなれば、所蔵データを作ってもらいリンクする必要があるが、所蔵の登録は自施設の管理者の専権と考えているため、依頼することが困難な状況。（表氏）
- 複本倉庫として利用するという方向の修正が必要かもしれない。（イトウ氏、橋本氏）
- ・正本は登録しているが、複本はチェックのみにとどまっている。複本バンクとして再設定するのであれば、複本リストを作成しなければ、検索できないので活用されない。（橋本氏）
- 再寄贈のルールとしてリストを寄贈元が作るのか、寄贈先が作るのかの明確なルール作りが必要か。もちろん寄贈を受ける方からすればリストありの方が喜ばれると思うが、そのリストは簡易なものとしておきたい。（イトウ氏）
- ・再寄贈などが増えることを想定すると、寄贈承諾書について文言を精査する必要がある（表氏）

2 マニュアル

■ 雑誌登録マニュアル

雑誌作業マニュアル

1. 作業環境

- ① 入力に適した環境を整備します。雑誌の場合、サイズが大きく、都度運搬をすると労力に見合う冊数の運搬が見込めないため、書庫内での作業も想定します。
- ② 場所が決まったら、登録対象の雑誌、保管用のケースなどを準備します。



2. メディア芸術デジタルアーカイブ (<https://mag-archivepro.jp/manga>) にアクセス。



3. 自館の所蔵確認

- ① 巻号検索を行う。



- ② タイトル (ヨミ) で検索を行う。

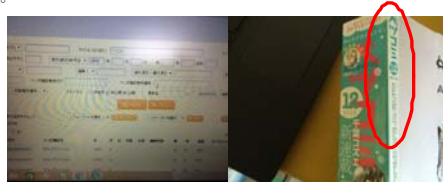
付録



※注意※

タイトル検索の場合、検索でヒットしても必ずしも同じ資料とは限らないので注意が必要です。よくあるタイトルの場合、複数ヒットしたり別の作品がヒットしたりすることも考えられます。

また、同雑誌でも異なる巻号がヒットすることも考えられるため同定作業は慎重に行ってください。



●検索後の作業の流れ

重複なし (A 作業)、重複あるが自館の所蔵登録なし (B 作業)、重複があり、かつ、自館に所蔵登録あり (C 作業＝複本) として、作業を行う。

4. 所蔵館情報確認

① 鉛筆マークをクリックし作品情報を開きます。



② 所蔵情報の欄を確認します。

付録

この欄に自館の情報が記載されていれば、自館での所蔵があることが分かります。自館情報の記載があれば作業Cへ、なければ作業Bへと移行します。

The screenshot shows a library system interface. At the top, there is a header section with a red box around it. This section contains the following information:

④ 所蔵情報	登録日時	登録者	削除
国立国会図書館	2014/03/08 11:05:58	1 ヶフタニ キョフタニ	

Below this header, there are various input fields for book information, including fields for '発行年月日' (1952), '原書名', '著者', '巻数', '価格', '形態', '所蔵先', '元所蔵先', '購入手続', '配架場所', '管理ステータス', etc.

5. A 作業手順

- ① A 作業は【書誌情報の入力】と【所蔵館の入力】を行います。【所蔵情報の入力】はB作業と同手順のため、B作業手順に記載します。
- ② 書誌情報の入力ページへ進みます。
- ③ コピー元があるか探します。コピー元が見つかった場合、そのデータを元に登録を行います。
- ④ コピー元なしの場合…新規で登録します。

6. B 作業手順

- ① 所蔵情報に自館を追加します。図で見ると、現時点での所蔵館は国立国会図書館のみであることがわかります。このようなとき、自館情報を新たに加えます。



- ② 入力箇所は以下の通りです。

登録番号	版型	館独自の備考
元所蔵先	受入日 (入力日)	配架場所 (箱番号)

付録

7. C作業手順

- ① 登録があり自館の登録もあれば複本となります。複本の対応は各施設のルールに沿って作業を行います。

8. 保管方法

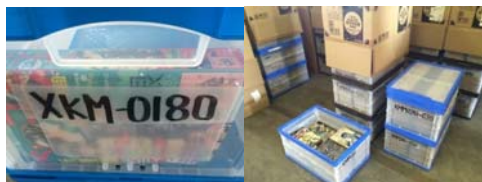
- ① A作業、B作業の場合は登録後に左下にバーコードを貼り付けます。



- ② 更新後に、バーコードを読み込んで、登録内容が反映されているか最終の確認を行います。



- ③ バーコードと保管場所をリンクさせることで、必要な時に出納ができる保管を行います。



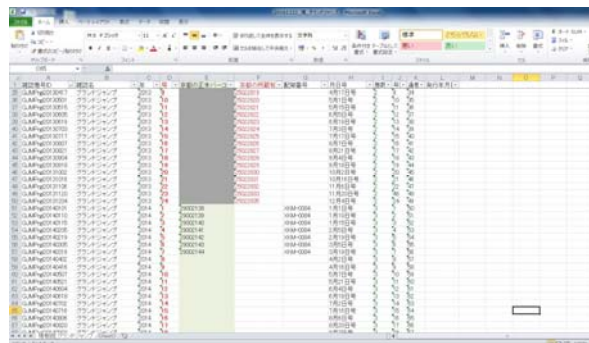
9. 複本チェック

今回の作業では、複本が多くあることが事前に分かっていたため、メディア芸術デジタ

付録

ルアーカイブより雑誌単位でデータを excel に変換し、excel と現物を照合する方法を採用した。その方法をマニュアルとして記載する。

- ① メディア芸術デジタルアーカイブより雑誌単位でデータをエクスポートする。
- ② excel で所蔵があるものを色づけし、色がないものは、データはあるが所蔵登録がない (B 作業対象)、データがなく現物があれば (A 作業) と判定し、excel 上に入力する。



雑誌番号	雑誌名	巻号	頁数	発行年	発行月	発行日	所蔵	登録	作業
1	11111111	1	1	1	1	1			
2	11111111	1	1	1	1	1			
3	11111111	1	1	1	1	1			
4	11111111	1	1	1	1	1			
5	11111111	1	1	1	1	1			
6	11111111	1	1	1	1	1			
7	11111111	1	1	1	1	1			
8	11111111	1	1	1	1	1			
9	11111111	1	1	1	1	1			
10	11111111	1	1	1	1	1			
11	11111111	1	1	1	1	1			
12	11111111	1	1	1	1	1			
13	11111111	1	1	1	1	1			
14	11111111	1	1	1	1	1			
15	11111111	1	1	1	1	1			
16	11111111	1	1	1	1	1			
17	11111111	1	1	1	1	1			
18	11111111	1	1	1	1	1			
19	11111111	1	1	1	1	1			
20	11111111	1	1	1	1	1			
21	11111111	1	1	1	1	1			
22	11111111	1	1	1	1	1			
23	11111111	1	1	1	1	1			
24	11111111	1	1	1	1	1			
25	11111111	1	1	1	1	1			
26	11111111	1	1	1	1	1			
27	11111111	1	1	1	1	1			
28	11111111	1	1	1	1	1			
29	11111111	1	1	1	1	1			
30	11111111	1	1	1	1	1			
31	11111111	1	1	1	1	1			
32	11111111	1	1	1	1	1			
33	11111111	1	1	1	1	1			
34	11111111	1	1	1	1	1			
35	11111111	1	1	1	1	1			
36	11111111	1	1	1	1	1			
37	11111111	1	1	1	1	1			
38	11111111	1	1	1	1	1			
39	11111111	1	1	1	1	1			
40	11111111	1	1	1	1	1			
41	11111111	1	1	1	1	1			
42	11111111	1	1	1	1	1			
43	11111111	1	1	1	1	1			
44	11111111	1	1	1	1	1			
45	11111111	1	1	1	1	1			
46	11111111	1	1	1	1	1			
47	11111111	1	1	1	1	1			
48	11111111	1	1	1	1	1			
49	11111111	1	1	1	1	1			
50	11111111	1	1	1	1	1			

- ③ 入力終了したら、メディア芸術デジタルアーカイブ管理者に一括登録を依頼する。

※注意※

この作業は、大量に同様の雑誌タイトルがある場合に有効ではあるが、一括登録が必要となるため、事前にメディア芸術デジタルアーカイブ管理者との確認が必要となる。

■ 貴重書登録マニュアル

プレミア本マニュアル

プレミア本とは・・・

①貸本漫画…昭和 20 年代終わりから 30 年代半ば頃まで、全国に 3 万軒以上あった貸本屋で流通していた。サイズは初期は B6 判、後に A5 判が中心、紙質は悪くページ数は少ないが厚みがある。出版元は大阪、東京の零細出版社が多い。いつ出されたかが読者にわからないようにするために、奥付けには発行年月日が記載していないものがほとんどである。

戦前から子どもたちの娯楽の中心にあった紙芝居を描いていた作家が貸本漫画家に転身した作家として、白土三平、小島剛夕、水木しげるなどがある。貸本漫画家としてデビューし、後にメジャーとなった作家として、本宮ひろ志、つげ義春、池上遼一などがある。

貸本漫画は戦後マンガ文化の原点として貴重なものであるが、当時の発行部数が 2、3 千冊しかなく残存率は極めて低い。当時の世相、マンガ表現技法、作品に込められたメッセージなどを知るのに第一級の貴重な資料である。

②月刊誌マンガ付録…1949 年頃から月刊マンガ雑誌の創刊が始まり、60 年代にはピークを迎えた。当時は本誌に掲載されていたマンガの続きを別冊付録マンガに収録して読者の関心をおおっていた。雑誌の流通は新刊書店であり、貸本屋が裏の流通ルートとすれば、新刊書店は表の流通ルートといえる。

サイズは B6、B5 が中心で、発行元は講談社、集英社など多くが大手出版社、作者としては手塚治虫、横山光輝、藤子不二雄、赤塚不二夫などが多い。比較的薄手のものが多く、紙質もよくないので、貸本漫画と同様残存率が極めて低い。付録マンガは独立した内容の作品になっているものが多く、また付録マンガでしか読めないエピソードもあるのでマンガ研究の上では欠かせない素材である。



付録

1. 作業環境

- ① 入力に適した環境を整備します。サイズが不統一なため、広いスペースや台となるテーブルなどを準備します。



2. 入力作業

- ① excel シートに入力を行います。

※入力に際し、見たままを入力することを前提とし、ネットで検索して得た情報は、
典拠が定かではないので、根拠データとしない。

付録

② 入力項目は以下の通り。

固有番号	その他の冊子 ID	(マンガ)作品 ID	冊子名
冊子名ヨミ	冊子名追記	冊子名追記ヨミ	冊子名別版表示
巻	巻ソート	責任表示	作者・著者
作者・著者ヨミ	原作・原案	原作・原案ヨミ	協力者
協力者ヨミ	標目	著者典拠 ID	初版発行年(西暦)
初版発行月	初版発行日	発行日備考	シリーズ
シリーズヨミ	シリーズ番号	頒布イベント	価格・頒価
出版者(サークル名)	出版者典拠 ID	発行者	発行地
ページ数	縦の長さ×横の長さ	製本・造本形態	全国書誌番号
言語区分	分類	レイティング	冊子紹介文
冊子タグ	冊子備考	メモ	その他の冊子 ID
その他の冊子所蔵情報 ID	登録番号	(館固有の ID)	版数
刷数	発行年(西暦)	発行月	発行日
価格・頒価	判型	館独自の備考	所蔵情報テーブルの非表示フラグ
メモ			

※注意点

- ・冊子名：背表紙を基本として入力する。
- ・冊子名追記：大特集号などが書いてあれば入力する。

付録

- ・発行地：東京以外を入力する。
 - ・ページ数は裏表紙の枚数も数える。
 - ・貸本長編と貸本短編：1冊に同一タイトルが連続していれば貸本長編、1冊に複数のタイトルがあれば貸本短編として入力する。
 - ・発行と出版：区別して入力する。
- ③ 入力の分類は、貸本男性、貸本女性、附録雑誌の3つとする。

3. 保管

- ① コンテナ一箱を40冊までとし、コンテナには番号を貼り付ける。
- ② 番号÷40で格納している箱番号がわかるようにする。



本報告書は、文化庁の委託業務として、京都精華大学が実施した平成 28 年度「メディア芸術連携促進事業 連携共同事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。